

Oto & Sueda

大戸・末田地区

元荒川の河畔を歩く

その昔、大戸と末田の間を流れる元荒川は、奥州街道の渡河点であり、幾多の合戦がありました。川の両岸には鎌倉時代からの古刹があります。一度お参りしてみませんか。



大戸・末田地区

見どころガイド

①定杭

その昔、堰の高さをめぐり長い争いが続いており、寛延3年(1750)ようやく話し合いがまとまった時に堰の高さを定めた石杭といわれています。堰の高さは、この定杭の頂部から8尺5寸(約2.6m)下がり決められています。



かつては下流の土手の上でしたが、平成4年(1992)堰の改修工事に合わせて、現在地に移設されました。

②末田須賀堰(大戸の堰)

通称「大戸の堰」と呼ばれていますが、正式名称は「末田須賀堰」といいます。平成6年(1994)に建設された取水堰は、岩槻・春日部・越谷の約3,000haの範囲に灌漑用水を供給しています。



また、堰上流の河川敷では、秋から冬にかけてキタミソウ(絶滅危惧種)を見ることができます。

③元荒川の桜堤

元荒川の左岸堤防は、中世の鎌倉街道の跡といわれ、約500mの間に90本のソメイヨシノが植えられていて、桜の名所になっています。桜の咲く頃になると花見客で賑わいます。



④大戸の第六天神社

天明2年(1782)の創建と伝えられ、祭神は面足尊・惶根尊で、火災・盗難・家内安全・五穀豊穰・病気平癒などに霊験あらたかな神社として、人々の信仰を集めています。



神社のお使い役の大天狗及び烏天狗の絵馬や耳病や頭痛等に効くといわれる神籤などが有名です。社前に並ぶ川魚料理店は、岩槻の奥座敷といわれています。

⑤木力館

埼玉県博物館連絡協議会加盟の「木の博物館」として、木の家の素晴らしさを伝えていきます。木の力は生の力として、檜・杉・樅・ポプラなどの天然材を使用して、通し貫工法という伝統工法を用いた六角形の建物です。



⑥百堂供養塔

百堂供養は、埼玉県東部から千葉県・茨城県において、江戸時代初期から人々に信仰されました。信仰は、村の中や近隣のお堂百箇所を数日かけて、念仏を唱えながらめぐるので、百堂の巡拝が終了すると石塔を造立する人もいました。



埼玉県内では巡行を、茨城県内では念仏を主として行われたといわれています。岩槻区内には、6基の百堂供養塔があります。

⑦金剛院

真言宗のお寺で、金龍山金剛院妙音寺といい、虚空蔵菩薩を本尊としています。土地の古者は「島の金剛院」と称しています。寛正3年(1462)宥慶上人が、現在地に僧坊を移転し今日に及んでいます。天正19年(1591)徳川家康から朱印地10石を賜っています。江戸時代の金剛院は、豊山派の談林所として数多くの僧侶を輩出しました。



また、元禄10年(1697)に、将軍徳川綱吉の生母桂昌院から寄進を受けた仁王門には市指定有形文化財の金剛力士像が安置されており、仁王の股くぐりという習俗も伝えられています。

⑧浄音寺

浄土宗のお寺で、深谷山諸行院浄音寺といい、阿弥陀如来を本尊としています。寺の創建は、「延徳元年(1489)浄音という僧が草庵を創立したことに始まった」と伝えられています。



天正19年(1591)徳川家康が、鷹狩りの折りに立ち寄り、「深谷」という山号を名付け、朱印地3石を賜っています。浄音寺の隣接地には、不動堂及び薬師堂があります。

お問い合わせ

岩槻区役所観光経済室 〒339-8585 さいたま市岩槻区本町3-2-5 TEL 048-790-0118 FAX 048-790-0260

編集

城下町岩槻歴史散策実行委員会語り部会

このマップは、1,000枚作成し、1枚当たりの印刷費は17円です。